

# 事業報告書

令和4年度



公益財団法人 紫雲会

横浜市緑区生活支援センター

## 令和4年度 緑区生活支援センター事業報告書

今年度はコロナ禍での支援センター運営3年目となりました。少しずつ平常を取り戻しつつの状況下ではありますが、一昨年度より実施した「18区的生活支援センターにおける機能標準化」について、地域や利用者の皆様に浸透し、理解も進んだのではないかと考えます。今後はこの標準化の検証を行いながら、これまで以上に地域における相談支援体制の強化を目指し、また精神保健福祉活動の拠点としての機能と役割を担っていくことが出来るよう努力していきたくと考えます。

また地域において「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築」を進める中、各区において生活支援センターがその中心的な役割を担っていく必要があると感じています。そのために緑区自立支援協議会「精神部会」の場を活用し、地域の多くの事業所の協力を得ながら、多職種連携を意識して「にも包括」の構築に向けての取り組みを継続して企画しました。今後も地域の事業所と協働して地域のニーズを元に、様々な角度からの取り組み事項の検討を進めていきます。

引き続き緑区において、区福祉保健センター、基幹相談支援センター、地域ケアプラザなど各関係機関との協働体制を更に強化し、地域移行の啓発推進、医療との連携強化、困難ケースの受け入れやアウトリーチ支援の体制作り、更には地域での人材育成などを実践しながら、緑区の相談支援体制を拡充し誰もが安心して暮らすことができる地域づくりに繋がる活動を継続して発信していきたくと考えます。

### \*\*\*【事業実施内容】\*\*\*

#### 1. 指定特定・指定一般相談支援事業

計画相談支援については、単にサービス利用を目的とした関わりではなく、地域において本人の希望する生活を実現するための包括的な支援を継続していくことを目的とし、本人を取り巻く関係機関との連絡調整や家族調整など総合的に支援します。状況に応じた対応は不可欠でありモニタリングは重要と考え、コロナ禍においても対策を講じながら実施をしました。また地域における計画相談事業から、関わりに苦心しているケース等の相談を受けることも多くなりました。家族ぐるみの支援が必要なケースや対応に苦慮するケース、病状が安定せず緊急対応を余儀なくされるケース、また触法ケースなど、いわゆる困難ケースに対する支援については生活支援センターが特に対象とするケースと考えており、区の障害支援担当と連携しながら意識的に支援を実施しています。

相談員の支援の質を担保するためにも、区自立支援協議会の相談支援部会、その他横浜市や各団体主催の研修等の参加を推奨すると共に、緑区自立支援協議会においては主任相談支援専門員が中心となり「相談支援専門員のための部会」を企画運営し、区内の相談支援専門員相互の繋がりや資質向上、事業所のバックアップ体制の構築を目的として、「支援者支援の仕組み作り」を目指しました。さらに、横浜市の相談支援従事者育成に関し、研修企画検討委員会への継続した参画や、初任者研修の統括、現任研修等のインストラクターとして職員を派遣しています。

また、対象者の支援方針、支援計画の立て方や方向性についても職員間で共有し意見交換することや、職場内において先輩職員から経験の浅い職員に対してのスーパーバイズの場を積極的に設ける等、支援する側が孤立する事の無いよう配慮しました。

#### 【4年度実績】

計画相談支援 50件、相談中のケース 2件  
地域移行支援 1件 自立生活援助 1件

## 2. 地域活動支援センター事業

### (1) 相談支援

コロナ禍の状況が長期に渡る中、外出の制限や感染への不安など生活上のストレスが長期に続き、不調を感じる方や大きく体調を崩される方が増えている印象です。

以前支援センターを利用されていた方が約5年ぶりに来所され、生活状況の変化や病状の不安定さが見られたため、改めて関わり方の検討を進めました。結果的には区障害支援課が介入し入院となりましたが、退院後の生活に向けてはご本人も支援センターの関わりを再度希望され、面会を重ねるなど退院に向けての支援に繋がりました。過去の支援の積み重ねから、本人のSOSの発信先として支援センターを5年ぶりに思い出してもらえた事例だと振り返り、ひとりひとりの支援の大切さを職員間でも共有しています。

コロナ禍の影響から支援センターへの来館者が減少する中、支援が滞ってしまうなど不安を感じさせることの無いよう、昨年同様必要な訪問の継続や電話で体調を確認することなど、意識的に支援関係の維持に努めました。その方の持つ力を引き上げ、利用者自身の力で自立した生活を目指すことも感染症が広がる状況下では必要なことであり、今後もエンパワメントの視点を持って関わっていきたくと考えます。

また、嘱託医相談、心理士相談については、福祉職である職員とは違った視点での相談の場となっており、必要な状況において職員との情報共有や、医療の立場からのアドバイスを頂けたりすることも多く、必要不可欠な相談の場面となっています。

### (2) 訪問・同行

今年度も昨年同様コロナ禍ではありましたが、必要不可欠な訪問や同行について精査した上で実施をしました。職員も利用者も同様に感染対策の徹底や必要性を常に意識することや、訪問前に電話にて本人の体調確認をするなど、出来る限りの配慮のなかで支援を行いました。また感染症への不安などから訪問による支援への心配をされる方には、電話による定期的な連絡などで継続的な支援を心掛けました。

そして定期的な訪問を続けるからこそその体調の変化に気づくことが出来ます。特に暑さが続いた夏場の熱中症による救急搬送の対応や、不穏時の訪問、緊急時の通院同行、緊急入院対応などを実施しました。アウトリーチの支援に重点が置かれていくにつれて、本人や環境の変化への気づきと緊急対応についてのリスク管理が重要になってきます。緊急時において、各職員が落ち着いて対応出来るように、職員会議では事例検討を行い、緊急時の対応について改めて職員全員でマニュアルを確認することや意見交換を実施しました。

また、引きこもり状態の方への支援は昨年度同様に相談依頼が多い印象です。これまでは、本人ではなく、家族からの困り感や疲弊状態といった内容の相談が多く、家族支援が中心となっていた状況でした。ただ最近では、高齢家族の病状悪化や入院などにより生活が急変した方、家族の介護支援の中で発見された方など、迅速な支援を要するケースが目立っている印象です。家族にて全面介助されていたケース、社会経験やスキルもなく緊急事態であっても1から生活設定を必要としているケースなどもありました。8050問題や高齢化問題により、支援がまだ行き届いていない潜在的なケースが今後も増えてくると考えられます。これまで以上に他職種との連携を図り、早期発見やタイムリーな支援を心掛けていきたいと考えます。

### (3) 家族支援

定期的に訪問しているケースによっては、ご家族自身の思いを伝えて下さる方がいます。その家族の思いや心配な気持ちにも寄り添いながら、本人への支援を行ってきました。ただ、その心配な気持ちは、家族自身が高齢となり、関わりきれない思いや家族亡き後の心配からの気持ちである場合が多い印象でした。

その心配を解消するべく、ご本人のストレスを高めていくことや支援の導入など、自立に向けた関わりを続けてきました。さらに、ご家族自身の支援に関しては、地域ケアプラザや後見的支援とも連携を取りながら関わっていくことができました。家族支援という視点において、それぞれの専門性や役割を整理し、地域で関わる体制を築いていくことがより重要になると考えています。

緑区家族会はコロナ感染症対策を十分に実施した上で、支援センターが会場提供を行い、定例会を隔月で実施することができました。支援センターは例年通りオブザーバーとして参加し、家族同士が助け合うことや力をつけていくことのバックアップをしました。新規で参加されるご家族もあり、家族会のニーズは強いと考えます。

家族会に参加されている家族から相談を受けて個別支援につながり、ご本人と定期的に面談をすることになったケースもありました。長年訪問を続けているケースでは、高齢の親が自身の亡くなった後のことを心配しており、経済面について相談するために親と一緒に生活支援課に相談に行きました。家族の困り感や心配事を丁寧に伺い、家族とも良い関係性を築くことで支援者につながっているという安心感を抱いていただけるように今後も家族支援を大切にしていきます。

発症後間もない家族に向けて、緑区福祉保健センターと共催で「家族教室」を例年開催していますが、昨年度に引き続き新型コロナの影響で開催することができませんでした。感染状況を考慮の上、緑区福祉保健センターと令和5年度の開催について検討をしました。

- \* みどり会定例会・役員会 → 隔月で実施
- \* みどり会新年会 → 新型コロナの影響で中止
- \* 家族教室 対象：発症後間もないご家族（統合失調症と診断された方のご家族）  
→ 新型コロナの影響で中止
- \* 横浜市精神障害者家族連合会 市民メンタルヘルス講座シンポジウム  
「親が健康な内につながっておきたい 横浜市や国の支援」 シンポジスト参加

#### (4) 当事者活動支援

支援センターのプログラム実施においては、「利用者との協働」を念頭に、利用者の意見を取り入れることを意識しています。今年度は新型コロナ禍ではありましたが、十分な対策を行った上で、当事者活動をバックアップしました。

センターフロアにて「こころの元気+まつり」のオンライン上映会を実施しました。

内容は「身体・脳・こころを整える」をテーマにした身体合併についての話でした。昨年度よりも多くの利用者が参加され、「知らなかった事が分かって良かった」等の感想がありました。上映会後に茶話会を久し振りに開催し、マイブームをテーマに発表してもらいながら会話を楽しむ場を作ることが出来ました。

また、支援センター連絡会「ピアを考える会」の代表として、健康福祉局主催の「ピアサポート検討会」に参加し、ピアスタッフについての意見交換、検討等を実施しました。また「ピアを考える会」では座談会を対面で開催し、支援センターにおける当事者活動の現状について意見交換し、話し合う場を作りました。改めてコロナ禍で止まっていた活動を振り返り、再開するきっかけを作る場となりました。

- \* 「手芸サークル」年 10 回開催 47 名参加
- \* 「支援センター連絡会 ピアを考える会」 7 回実施
- \* 「支援センター連絡会 ピアの座談会」 1 回

- \* 「ピアサポート検討会」(健康福祉局主催) 4回
- \* 「こころの元気+まつり」上映会 1回
- \* 「茶話会」1回

## **(5) 地域交流・地域連携**

### **【緑区自立支援協議会での取り組み】**

#### **○事務局運営**

緑区自立支援協議会においては、事務局として企画運営に携わっています。感染症対策下でも、開催方法を柔軟に検討し部会を開催しました。今年度は、参加者のアンケートの意見を各部会に反映することを心掛け、部会開催前には参画機関と事前に打ち合わせをするなどの主体性を重視しました。年度末の全体会において、自立支援協議会全体を振り返り、課題を整理し次年度の運営に向けてよりよい協議会体制づくりに繋げました。

一方で、参加者に対しての自立支援協議会の機能や役割についての説明不足が課題のひとつであると話し合い、次年度に向けての懸案事項としています。

#### **○精神部会**

今年度も「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」の構築と連動させながら、精神部会を実施することができました。今年度は特に区福祉保健センターと基幹相談支援センターと合同で企画運営を実施し、各関係機関の意見のもとに取り組み内容を検討してきました。参加者は地域ケアプラザや精神医療機関など、多職種を巻き込んで実施することができました。

#### **○住まいと生活部会**

利用者の住む環境や地域について話し合う場として、今年度から運営を始めました。今年度は、支援者も生活者であるという視点を持つことを目標に、緑区を知るための話し合いを行いました。将来的には区内の支援者が地域の課題に目を向けることができ、課題を話し合える場にしていきたいと考えています。

#### **○緑区自立支援協議会「相談支援専門員のための部会」**

参加対象者を相談支援専門員に絞り、計画相談支援事業を進めていく上での実務上の困りごとを話し合うとともに、法定研修受講者のインターバル期間の受け皿としての活用も視野に、企画・運営を行いました。年間5回実施し、「支援者に視点をあてた事例検討」や「モニタリングについての意見交換」などをグループワークで話し合いました。アンケートなどによる参加者の意見を反映しながら、相談支援専門員どうしが学びあえるテーマを企画していきたいと思えます。

### **【地域ケアプラザとの連携】**

「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」を進めていく中で、地域ケアプラザが進める「地域包括ケアシステム」と繋がりを持つことができ、高齢や介護分野との関わりが増えてきました。

#### **① 「緑区地域ケア会議」へ参加**

民生委員や自治会の方々や地域で暮らす精神障害の方への関わり方やその苦勞など多岐にわたった話題をグループワークにて共有しました。センター紹介や相談窓口としての機能の周知も行いました。

\* 霧が丘地域ケアプラザ主催「地域ケア会議」に参加

近隣住民で精神障害を持っていると思われる方がおり、大音量で音楽を鳴らす、爆竹を鳴らすなどの迷惑行為があり、今後の対応を検討するために地域住民、民生委員、ケアプラザ職員、区障害担当など

の参加者とケア会議を行いました。

\* 山下地域ケアプラザ 定例カンファレンスに参加(3ヶ月に1回)

山下地区のケースの共有を行い、必要に応じて一緒に訪問することを検討していきました。

- ② 「居宅介護支援事務所連絡会主催の合同連絡会」にて講義を実施  
ケアマネージャーを対象に、「横浜市緑区生活支援センターとの連携～精神障害者へのかかわり方を学ぶ～」を表題に講義を実施し、意見交換なども実施しました。
- ③ 「40歳以上のひきこもり者に対する北部ブロック支援学習会」へ参加  
地域ケアプラザとよこはま北部ユースプラザ等を運営するパノラマが引きこもり支援について検討し勉強し合える勉強会を立ち上げ、精神専門機関として参加しています。

### 【その他】

例年開催していた合築施設の特性を活かした「3 障害合同のお祭り（秋のコスモスフェスタ）」は昨年引き続き新型コロナの影響で中止となりましたが、感染症対策下でも開催できる方法について、地域活動ホームとも検討を重ね、次年度開催に向けての課題を話し合いました。

### (6) 自主事業

※詳細については【資料4】参照

行事、プログラムについては、新型コロナ対策を講じた上で出来る範囲での実施となりました。感染症が蔓延する中で外出の機会が減り、生活を楽しむこと、仲間とのつながりやその維持が難しい状況でも、緑区の地域性を活かし感染症対策を検討した上で、近隣にある「ズーラシア動物園」の散歩プログラムを企画・実施しました。仲間と一緒に楽しめる機会や場作りを考えていくことは、支援センターの大切な役割のひとつであると再認識することができました。

### (7) 情報提供

法制度の情報や必要な種々の社会資源の情報（グループホーム募集情報、就労関係、企画イベント）、新型コロナ感染症とワクチン接種について、適宜様々な方法（センター便り、ホームページ、館内掲示、ブックラック等）を用いて利用者やご家族、関係機関等に提供しました。より見やすい館内整備の工夫を心がけることや、情報提供の重要なツールであるホームページでは、その中のブログ機能を活用しタイムリーな情報発信をすることができています。また、ホームページではウェブアクセシビリティに関する仕様書に基づき配慮を行っています。

### (8) その他

利用者アンケート、メンバーとの意見交換、意見箱及び利用者から寄せられた直接的な意見や質問等について職員ミーティング、職員全体会議において協議し、早急に対応すると共に、掲示や個別の対応、説明等により利用者に向けて回答し内容等を周知しました。

## 3. 退院サポート事業

※統計については【資料2】参照

今年度は利用者の体調や環境に添いながら、「11名」の個別支援を実施してきました。

今年度もコロナ感染症予防の実施により、病院での面接や外出に制限がかかり、個別支援がなかなか進まない状況でした。ただ、具体的に退院が見込める利用者に対しては、病院での面談やオンラインでの面談、施設見学やチャレンジ事業などの体験宿泊など、退院に向けた直接的な支援を実施することができ、そ

のうち「3名」が今年度に退院することができました。引き続き、病院や他区センターと一緒にコロナ禍でも実施出来る支援の形を模索し、事業の核となる動機づけが必要な利用者への関りが行える支援が再開できるよう努めていきたいと考えます。

協働活動に関しては、北部ブロックで担当する病院へのアプローチを実施してきました。結果、協働活動を前向きに検討していただいた病院と一緒に活動を実施することが出来ました。ただ、担当する高齢や認知症を専門とする病院へは、コロナ禍のために依然として活動への投げかけが難しい状況もありました。その状況を北部ブロック全体で課題として認識すること、そして今年度の活動を実績として積み重ね、来年度はより多くの病院と関わっていけるよう検討していきたいと思います。

- \* 「北部ブロック会議」6回実施
- \* 「第3回3機関合同連絡会/精神科病院検討会 精神科病院との協働による退院支援の推進」1回実施
- \* 「横浜市生活訓練施設・横浜市退院サポート事業連絡会」1回実施
- \* 新横浜こころのホスピタル 病院職員向け協働活動 1回実施／入院患者向け協働活動 2回実施
- \* あさひの丘病院 病院職員向け協働活動 3回実施

#### 4. 自立生活アシスタント事業

※統計については【資料2】参照

今年度は計17名の個別支援を実施しました。昨年度より新型コロナウイルス感染症が少し落ち着いたため、感染対策は十分実施した上で自アシの強みである訪問や同行等に力を入れ、利用者との丁寧な関係作りを大切にしました。個別支援の特徴としては、複数のケースで計画相談と自アシで上手く役割分担をして支援をすることができたことです。自アシ登録者の中にはセンターの他職員による計画相談を利用しているケースが複数あります。利用者の中には病気によって足を切断することになり身体機能が低下した方、がんを罹患している方、金銭面の課題がある方など様々な方がいますが、計画相談がマネジメント役となり、自アシが課題解決に向けて丁寧に利用者に関わりながら支援をすることができました。複数の課題がある利用者に対して計画相談と自アシが上手く役割分担をして支援をすることで、利用者に対してより手厚い支援を提供することができました。

また、今年度は当センターの自アシのパンフレットを新しく作成しました。毎月実施している自アシ担当者会議にてパンフレット作成のために自アシの特徴や強みを話し合い、利用者や関係機関にとって分かりやすいパンフレットを作成することができました。その他、障害施策推進課と各ブロックの事業所代表による個別支援計画検討プロジェクトに参加し、個別支援計画作成のための冊子を作成しました。この冊子が各事業所の自アシ担当者の参考になり、より良い個別支援計画作成につながることで、利用者の利益になればと思います。

#### \*\*\*【普及・啓発活動】\*\*\*

精神の障害に対する偏見や差別はまだ根強く、その為地域での生活に支障があると感じている当事者・ご家族は多いのが現状です。当センターの責務として、地域に対する「普及・啓発活動」は必須であり、継続して実施していく必要があると考えていますが、今年度は新型コロナ対策のため可能な範囲での実施となりました。

#### 《講習会・研修会・相談会の開催》

- 「家族教室」 対象：発症後間もないご家族（統合失調症と診断された方のご家族）⇒コロナで中止
- 「横浜市精神障害者家族連合会 市民メンタルヘルス講座シンポジウム」シンポジストとして参加  
内容：「親が健康な内につながっておきたい 横浜市や国の支援」

○「精神障害の概要と関わり方のポイント」

対象：横浜市緑スポーツセンター職員

内容：基本的な精神障害に関する知識と関わる上で大切なポイントを講義形式で実施

○「横浜生活あんしんセンター主催 横浜市市民後見人養成課程（基礎編）」講師として参加

内容：権利擁護推進を担う市民後見人の養成研修の一幕で精神障害者への支援について講義

《市民向けのイベントへの参加》

「緑区役所障害者週間イベント」

\* 開催：12/7～12/9 場所：緑区福祉保健センター および参加各事業所

\* 支援センターおよび緑区内各事業所紹介と作品展示、スタンプラリー

\*\*\*【その他】\*\*\*

1. 「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム（以下にも包括）」の構築について

自立支援協議会の専門部会「精神部会」を活用し、日々支援していることが「にも包括」の構築であり、地域を作っていくことだと確認しながら、誰もが安心して生活ができ、支援を行き届かせていけるシステム構築を目指した協議を実施することができました。

今年度の目標を要約すると「多職種連携を図り、個別支援を積み重ね、地域課題を共有する」であり、地域事業所の声を聞きながら、3機関が事務局となり、企画・実施・振り返りを行ってきました。実施を振り返り、地域課題抽出まで至ることはできませんでしたが、それぞれの事業所の専門性を聞くこと、悩みを話すことなど、状況や思いを発散することは出来たと思います。来年度はそれらを収束/整理し、精神に関する取り組みを明確にしていきたいと考えます。そのためにも、支援者の思いだけでなく当事者の思いを聞くこと、医療機関やケアプラとも協働していくことを進め、より一層地域を巻き込んだ協議の場となるよう努めていきたいと考えます。

《企画した活動内容》

- ・第1回「生活・活動」をテーマとした事例検討の実施、グループワーク
- ・第2回「多職種連携・引きこもり・親亡き後」に関する事例報告の実施、法律の専門家である弁護士の講義、グループワーク
- ・第3回 精神科病院ワーカーによる「病院との繋がり方や制度について」の講義とグループワーク

2. 職員資質の向上・人材育成

より質の高い支援の提供を目的に、外部研修への参加奨励、支援センター内部での職員研修会等を実施し、人材育成の一環として職員の資質と知識の向上や対人援助職としてのメンタルケアやモチベーションの維持に努めました。研修会での講師やインストラクター等について外部から依頼を頂いた際には、双方の人材育成の視点から、積極的に参画しました。同法人である中区生活支援センターからの依頼を受け、年4回スーパーバイザーとして事例検討会に参加しました。

また、緑区生活支援センターの特記すべき点として「新人職員の育成」について挙げられます。入職した新人職員にはそれぞれに「担当職員＝スーパーバイザー」をつけており、定期的な振り返りを実施しながら職場内スーパービジョン体制を取っていく形が、しっかりと体系化し定着しています。先輩職員に相談するという土台作りが出来ていることで、経験を積み重ねても壁にぶつかった時には「相談できる」という意識が、職場内に出来ていると考えます。さらにその実施内容を管理者視点、支援者支援の視点、そしてバイザーも育成していく視点などを交えて、所長主任会議にて共有できていることも資質の向上に繋



がっていると考えます。

職員会議においては、事例の共有とその検討から、各職員への気づきへと繋げる形を、職員同士が自然な形で理解できており、会議においてもグループスーパービジョンを実践することが出来ています。事例提供や論点に沿った発言、そして進行やまとめ方などそれぞれの役割をこなすことも職員のスキルアップに繋がっていると考えます。

#### 《今年度支援センターで実施の職員研修、勉強会等》

##### 【伝達研修】

- \* 「ゲートキーパー養成講座」
- \* 「食品衛生責任者講習」
- \* 「重症心身障害児・者の生活を知る研修」
- \* 「自アシスキルアップ研修」

##### 【内部研修】

- \* 「支援者にとっての揺らぎ」
- \* 「個人情報保護研修」
- \* 「人権研修 2022」 ※権利擁護と虐待防止を含む
- \* 支援困難事例について、職員会議、職員ミーティング等における「事例検討」6回実施

### 3. 実習生の受入れ

昨年度に引き続きコロナ感染症対策を実施し実習生の受け入れを行いました。3月に受け入れた実習生はコロナ感染症が少し落ち着いている時期であり、地域の事業所での体験や利用者との交流、各研修や会議への参加ができました。センターだけでは見えない地域との繋がりを体感してもらえる実習となりました。

また、公認心理師資格を目指す学生に対し、実際に大学に赴き、精神障害理解を促す実習を行うことができました。コロナ禍を考慮し、実際の支援現場での実習は実施しませんでした。利用者の実際の生活場面や心境などを動画で流すなど工夫をして実施をしました。

- \* 東京豊島 IT 医療福祉専門学校…実習生 1 名、計 20 日間
- \* 田園調布学園大学…実習生 1 名、計 14 日間
- \* 東洋英和女学院大学 人間科学部 人間科学科…大学内で講義実施、参加者 8 名、1 回

### 4. 安全管理・災害対策

安全管理に関しては、利用者個々の日々の様子を意識し、不穏時、緊急時の対策等について日頃の職員ミーティングや職員全体会議に於いて検討、対応策を講じました。

災害対策は、緑区役所との「福祉避難場所に協力する協定」に基づき、万一の災害時対策として、災害備品（発電機、サーチライト等の照明機器、ラジオ、懐中電灯等）と災害用備蓄品を整備し、使用方法等職員全体で確認する等、避難所としての整備を固めました。

合築の地域活動ホームとは年 2 回の「合同避難訓練」の実施を行い（今年度は新型コロナ対策のため 1 回の実施）、災害時や不穏者への対応方法の共有や、双方の事業所の早朝・夜間勤務体制、緊急時連絡体制の確認等を行いました。中山町地域防災訓練も中止が続き、風水害災害も想定し、広域避難場所までの避難経路の確認を行いました。階段や坂などの地形状況を確認でき、災害の状況による判断の必要性を確認しました。

また緑区社協福祉施設等分科会では、大規模災害時を想定した訓練の一環として「緑区内災害緊急時連絡用回覧板」の取り組みを継続的に実施しており、地域の横の繋がりと近隣施設との顔の見える関係作りに繋がっています。また中山町地域防災訓練（今年度中止）では、地域での有事における連携体制の確認をするなど、大規模災害時など、万一に備えて具体的な備えをすると共に、地域や近隣福祉施設との連携の強化に繋がっています。

## **6. 衛生管理**

年2回、清掃業者による館内全体の清掃、及び月4回近隣地域作業所による清掃（委託）、毎月1回調理器具の消毒、漂白やシーツ類の洗濯を行い衛生管理に努めました。特に調理室の衛生や調理に使用する布巾、タオル等については食中毒防止の観点からも清潔を保つよう徹底しました。またノロウイルス、新型コロナウイルスの対策として、手洗いの推進、入口自動ドア前、トイレ出入口付近、調理室前等に手指の消毒液を設置、開館、閉館時、夕食サービス終了後に調理室・食堂のテーブル、手すりや椅子等の消毒を念入りに実施しました。また汚物処理方法のマニュアルを職員で共有するなどの予防に努めました。

## **7. 新型コロナウイルス感染症対策の実施**

今年度も引き続き、新型コロナウイルス感染症予防のため、出来る限りの工夫と対策を実施しながら、センターの運営を行いました。

### **【利用者】**

- ・来館時の検温、手指消毒、マスク着用などの徹底
- ・夕食サービスの利用における人数制限の設定
- ・入浴、洗濯の事前予約制度の設定
- ・飲食や密を避けるため、プログラムや行事等の実施検討又は中止
- ・利用者の健康状況や様子の見回り

### **【館内】**

- \* 開館・閉館時、食事前後、また適宜に館内の消毒実施
- ・空気清浄機等の設置（フリースペース 3台、職員室 1台、相談室 各1台、休憩室 1台）
- ・フリースペース、相談室、静養室など換気や消毒（手指消毒用アルコールの設置）
- ・飛沫防止のための設置物  
ビニールカーテン（受付）、アクリル板（食堂各テーブル、相談室、職員室、受付）
- ・情報発信、予防啓発のチラシ等掲示

### **【職員】**

- ・出勤前と勤務前の検温、手指消毒、マスク着用の徹底、定期的な抗原検査の実施
- ・情報共有（県や市からの情報など）
- ・共有物の消毒
- ・休憩時間後の休憩場所の消毒
- ・家族の体調不良についての報告
- ・ワクチン（5回目まで）の接種

緑区生活支援センター 年間運営状況

※（）内…昨年度実績

4年度 開所日数		308日	
登録者数	4年度登録	39(45)名	
	全登録者数	1390(1351)名	
利用者数	本人	2891(2325)名	9.4(8.0)名/日
	家族	231(191)名	0.8(0.6)名/日
	ボランティア・関係機関	132(143)名	0.4(0.5)名/日
相談支援	電話相談	5945(5590)件	19.3(18.1)件/日
	面接相談	677(657)件	2.2(2.1)件/日
	訪問・同行	424(398)件	1.4(1.3)件/日
	非構造面接	283(294)件	0.9(1.0)件/日
	嘱託医相談 35回実施	10(13)件	0.3(0.3)件/回
	心理士相談 42回実施	23(20)件	0.5(1.0)件/回
各種サービス	夕食サービス・週3回提供	1389(987)名	10.0(7.4)名/日
	入浴サービス	172(137)名	14.3(11.4)名/月
	洗濯サービス	43(160)名	3.5(12.9)名/月
	インターネットサービス	33(17)名	0.1(0.1)名/日

退院サポート事業 年間実績

4年度 個別支援者数 (退サポ: 11名 地域移行支援: 1名)						
退院 サポート 事業	支援継続	10名	退院者	3名	アパート設定	0名
	退院後フォロー	1名			自宅	0名
	相談中	3名			GH	0名
	支援終了	0名			生活訓練施設	3名
地域移行支援		1名				
4年度 啓発活動 (計8回)						
病院		・患者対象: 1回		・院内職員対象: 6回		
関係機関・地域		・関係機関: 1回				

## 【資料3】

## 自立生活アシスタント事業 年間実績

※ ( ) 内…昨年度実績

4年度支援者数		登録者	17 (24) 名	相談中	0 (3) 名	
支援内容	面接	48 (46) 回	心理情緒	395 (587) 回	衣食住	241 (468) 回
	訪問	132 (131) 回	医療健康	281 (505) 回	対人	155 (287) 回
	同行	33 (21) 回	消費生活	172 (174) 回	就労	72 (120) 回
	ケア会議	7 (10) 回	関係機関との連携	10 (30) 回	余暇	5 (9) 回

## 【資料4】

## 緑区生活支援センター自主事業報告

## 【プログラム】

回数	プログラム名	内容	場所	参加人数
10回	手芸サークル	ミーティング、自主制作	支援センター	47
4回	みどり菜園	野菜の作付け、収穫	緑市民菜園	18
10回	余暇支援	カードゲーム、クイズ	支援センター	46
13回	センターソフトボール	ソフトボール練習、練習試合	白山ハイテクパーク	142
1回	元気+まつり上映会	リカバリーフォーラム	支援センター	14
1回	茶話会	体調管理、マイブーム	支援センター	10
3回	メンバーミーティング	センター利用について	支援センター	13
35回	嘱託医相談	精神科医師による相談会	相談室	10
42回	心理士相談	心理士による相談会	相談室	23

## 【季節の行事】

月	プログラム名	内容	場所	参加人数
5月 11月	ズーラシアお散歩	ズーラシア動物園散策	横浜ズーラシア	22
6月	ホテル観賞会	ホテル観賞	四季の森公園	6
1月	初詣	近隣の神社へ初詣	中山杉山神社	7
2月	豆まき	地域の豆まきイベントに参加	鴨居神社	4

## 【地域交流】

回数	プログラム名	内容	場所	参加人数
1回	あおぞら合同防災訓練	避難訓練	合築施設全館	51

## 【地域支援事業・地域普及啓発事業・その他】

回数	プログラム名	内容	場所	参加人数
3回	出張個別相談会	地域の方に向けた相談会	東本郷ケアプラザ	3
12回	家族会定例会・役員会	オブザーバー参加	地域交流室	130